

新幹線通勤考 大森宣暁

「よしっ、座れる！」 妻の転職に伴い、宇都宮から上野まで新幹線通勤を始めて早五ヶ月。当初は座れるだけでホッとしていたが、最近は、より快適さを追求。「なすの」号は基本的に空いている。「こまち」型車両連結の十六両編成なら、なおラッキー。車内では、パソコンで仕事、たばこ（今は全車禁煙）、音楽、寝不足の時は睡眠。周りの人が気になるので、パソコン画面にフィルターを装着。東側の席は太陽が眩しくて画面が見にくい。以前、通勤時間は徒歩十五分で、喫茶店で一服することも多かったが、今は車内がその代わりだ。富士山の眺めが素晴らしい時は、良いアイデアが浮かんできそう。五十分は、あつと言う間である。一方、帰りは混雑していることも多い。三人掛けの中央しか空いていなくて、「すみません」と恐縮しつつ、通路側に座る人の前を通る時は、少し抵抗がある。さあ、ビールでも飲むか。寝過ごしたことはまだない。

理論的には、「交通は活動の派生需要」であり、より早く、安く、楽に、目的地に到達できることが望ましい。移動時間は負の効用で、目的地で特定の活動に参加することが正の効用とされる。しかし、気分転換、思索の時間、徒歩や自転車は適度な運動で健康にも良いなど、移動にも正の効用の要素がある。また、電子機器の小型化、携帯電話やインターネットの普及により、移動中に実行可能な活動が多種多様になった。いかに通勤時間を上手に利用できるかが、日々の生活の質を高める上で鍵となろう。「まもなく上野です。」

（おおもりのぶあき 東京大学講師）